

生駒市市民自治検討委員会設立準備会（第11回）議事要旨

日時：平成16年9月8日（水）9：30～11：00

場所：市役所403・404会議室

出席委員（敬称略）：相川、中川、野口、上埜、金谷、鶴田、森

1. シンポジウムについて

事務局：本日はシンポジウムが議題である。先日から設立準備会の市民委員に検討をお願いしてプログラム等をまとめたので、基本的な事項について確認をお願いしたい。まず、前回からペンディングになっていた司会者、それに関連して委員の皆さんの役割分担について再度確認したい。

野口委員：私は前回と同じ意見である。

中川委員：その後、金谷委員と話し合いはされたのか。

金谷委員：話し合いはまだであるが、本日の会議の中で決めて頂いて結構である。

相川委員：前回、会議の後に協議されたが、結論は出なかったのか。

中川委員：協議をしたが決まらなかった。状況、背景として、生駒の場合できるだけ障害を少なくした方が望ましい。自治基本条例について議会のあり方がどうなるかということもあるので、議会では保守・革新とも関心をもっておられる。先般の議会の会議録を見ると、非常に注目していると受けとめられる内容の質問が出ている。司会者に名前があがっている方については、議会に前回立候補されたことが危惧される一方で、立候補するのは市民としての政治的権利であるとの意見もあり、この二つの意見が並立している。これは準備会としての戦略の問題である。本日は、もう一度委員一人ひとりの意見をお聞きして決断したい。

相川委員：会場からクレームがあった場合、会長が受けて頂けるのであればよいかとも思うが、懸念が払拭できない。内諾を頂き、既に準備をして頂いているのも心苦しい。

鶴田委員：心苦しいが、いろんな背景や懸念される事項を考えると、その方には今後の検討委員会に出て頂いた方がいいのではないかと思う。準備会委員の中には担当が当たっていない人もおられるので、その方に司会をお願いできないか。

上埜委員：自治連合会の役員の話し合いの中で、プロの政治家をめざして2回立候補された方であり、次回も立候補されるようであるので、反対との意見があった。また、シンポジウムに動員を受

けたがボイコットしようとする役員もあり、難しい状況にある。この準備会委員の中から司会など全部を出すのが無難ではないかと思う。テイクオフ生駒 21 についても、ある政治の機関誌に載っていることで誤解を招いている。

中川委員：自治会の役員が動員をボイコットしたいとのことであるが、この検討活動自体に政治的な色があるという意見があるのか。

上埜委員：役員の中には誤解されている方がいて、出たくないという意見がある。

中川委員：それについてはもう少し戦略を考える必要がある。

金谷委員：政治的な機関誌に載っていたというのは何のことか。我々の団体は政党とは全く関連をもっていないが。

上埜委員：ある政治団体の機関誌で、生駒の NPO の紹介の中に載っていた。そのため、その団体と一緒に活動していると思われる。

金谷委員：その団体に所属しているということではない。NPO については県のホームページで公開されている情報である。それでは生駒の NPO のすべてがそのように思われてしまう。

中川委員：それについては風景として理解してもらえばよいと思う。どちらが正しいとか間違っているということではない。生駒では、まだ NPO 活動、議員の市民化などが十分に理解されていない。今後戦略的に考えないといけない問題である。

森委員：結論としては、司会者として名前が出ている方には出てもらいたくない。市会議員もかなり出席されると思われるので、ささいなことで批判を受けたくない。ところで、私の自宅周辺の自治会の掲示板にシンポジウムのポスターが貼られていないのはなぜか。市役所の 1 階にも貼られていたが、今では他のポスターに替わっている。不特定多数の市民が来られる所にはもっとポスターを貼るべきである。

事務局：ポスターは各自治会の各会長さんに送っている。公共施設についてはこちらで確認しているが、自治会の対応についてはまでは確認していない。

上埜委員：ポスターは自治会の広報委員が貼ることになっている。

中川委員：司会の件については、ほとんどの皆さんが危惧されているので、その方向でお願いしたい。

金谷委員：その方へは全体の意見として伝える。既にある程度の話はしている。

中川委員：次のステップで検討委員会に入って頂くことをお願いしたいと思う。

金谷委員：今回の件については、司会者として名前が出た後ここに至るまで時間がかかったのは残念である。会議の中で決まったことについては了承する。

中川委員：司会を誰がするかについて事務局に何か提案があるか。

事務局：閉会の挨拶については、自治会の連合会長の方がより市民に近い印象を与えるので上埜委員にお願いし、相川委員に司会をお願いできないかと考えている。

中川委員：連合自治会は大切な団体であり、重みもあるので、会長に挨拶をして頂ければ私も助かる。司会は相川委員でよいか。

相川委員：了解である。

事務局：シンポジウムについては議会が敏感になっている。シンポジウムは誰がどのようにするのか、自分達にどのようなメリットがあるのか、保守も革新もほぼ全員が注目している。特に、チラシ、ポスターが出てから急に動きが出てきた。前向きに受け取る人もいるが、「これは何だ」と反対の人もいる。すべての人が同じ方向を向いていないので、時間をかけて意識啓発していくことが必要。あくまでもポスターを貼るのは地域の人である。

中川委員：生駒においては、市民民主主義型社会と共同体・コミュニティ型社会の文化の落差がある。しかし、両者は本来、水と油ではない。会社などの組織人、新住民もコミュニティの人間である。若者やビジネスマンも地域に関与していくべきであるが、サラリーマンは、異動・転勤がありリタイアしてからでないと定住型コミュニティに参加しにくいというハンディがある。生駒の住民自治を考える上では、この人たちが新しいコミュニティの文化をつくる必要があるが、まだその経験の段階に入っていない。議会の議員もそれなりに危機感をもっておられると思うが、本件はあくまでも市長が政治家として、政策公約として打ち出したことであるので、ボタンの掛け違いにならないようにする必要がある。このシンポジウムにおいて、新住民と旧住民という図式はつぶしたい。どうすればお互いにうまくやっていけるのかを考えるということ。また、革新系NPO対保守系コミュニティという図式もつぶしたい。自治会は保守的なものではないし、NPOへの過剰期待もやめる。議会が悪い、行政が悪いという一方的な批判もやめたい。批判の前に、地域も市民社会も変わらないといけないということ認識する必要がある。地域改革については、三者改革の展望をもって今後の展開ができればよい。上埜委員が仰るように、「これ何やねん」という文化があることは当然想定されるので、わかってもらうこと、共感してもらうことが必要である。市民自治というのは、コミュニティを中心に強い地域をつくるということである。しかし、地域にばかり負担をかけるのはまずい。お金はあるが人材が補給されないのが地域、知恵と人材はあるがお金がないのがNPOである。そのあたりで助け合いができるのではないか。

金谷委員：旧住民と新住民がうまく混ざり合っていくためには自治会が大事である。それをうまくやっていくのが生駒「流」の一番のポイントと思っている。

中川委員：シンポジウムで上埜委員の言い分を語るのはどなたになるのか。

野口委員：事前に上埜委員からお話を伺って、自治会の役割についても言及していきたい。

上埜委員：市民自治検討委員会の目的、方針、基本的な考えがはっきりしないという意見もある。

中川委員：再確認であるが、基本的には生駒市の自治基本条例をつくることが目標である。条例をつくるに際しては、市民、地域、議会、行政の四者関係の交通整理をすること、地域や市民一人ひとりが市民意識に目覚めてもらうことが必要である。条例は流行でつくるものではないので、地に足がついたものとするため、着実に取り組みたい。まず検討委員会においては人材づくり、世論づくり、共通認識づくりが目標になるので、そのことを十分に説明していく必要がある。

森委員：条例については他自治体の真似をするのでは関係者を説得できない。また、これを具体的なものとしていくためには、早い時点で議会の方と話をするチャンスがほしい。

事務局：シンポジウムをやるということで、議会からは賛否両論でいろんな意見がある。これは興味をもってもらっているということである。シンポジウムを通じて、市民の意見も入った報告としてまとまるので、次は議会に報告させて頂きたい。

中川委員：検討委員会は、市長の私的諮問機関として市長に提言するものである。議会に対しては市長が提案することになる。また、議会として独自のお考えがあれば議員提案をされればよい。いずれにしても、自治基本条例をつくるとなれば、議会側の不安・不満は必ず出てくる。

事務局：検討委員会の立ち上げが難しい。こちらを向いてもらえる土壌をつくってはじめて検討委員会の設立が皆から認めてもらえる。もう一点のペンディング事項についてであるが、運営協力としてNPO法人テイクオフ生駒21をお願いしているが、この位置づけをどのように考えればよいのか。契約行為なのかボランティアなのかということ。他のところのシンポジウムではどのようにされているのか。

中川委員：委託契約を結ぶのであれば表には出さない。今回はボランティアではないのか。

金谷委員：私に任せると言われているので、この会議で取り扱いを決めて頂いたらよいと思う。

野口委員：ボランティアでお願いする方が無難ではないか。契約にすると、なぜここにしたのかという議論になる。

森委員：CDも出している方はプロではないのか。謝礼が少ない金額ではまずいのではないか。

中川委員：こんなことまで議論しなければいけないのか。生駒は金と暇が余っているのではないか。全国の多くの自治体は何とか生き残ろうと必死であるが、生駒市は吸収合併される可能性もないし、のんびりしている。市民も行政のことを理解して経営に参加しないといけない。市民、議会、行政、三者の努力不足である。

事務局：率直に言って、どのようにさせてもらえばよいのか。

金谷委員：当日の手話や要約筆記の費用には決まりがあるのか。あるのであれば、それを参考としたい。私達には漠然として見当がつかない。

事務局：手話や要約筆記については担当課にお願いしているので、準備会としての支出はない。今手元にその資料がないが、後で確認するので、それベースであれば謝礼を出させて頂く。ボランティアでよいのであれば、そのようにさせて頂きたい。

中川委員：申し訳ないが、時間が限られているので、この話は別途やって頂きたい。パネラーである金谷、鶴田、野口の3委員からお話しの骨子を伺うのは当日しかないので、コーディネーターも入って打合せをしたい。パネルディスカッションは70分であまり時間がない。第1ラウンドで7分程度、第2ラウンドで5分程度のメッセージをお願いしたい。本当は3分以内のコメントが聞いていて心地よい。パネラーは、自己紹介や背景などの前振りをせず、いきなり本論に入ってほしい。第2ラウンドでは私から水を向けるが、必ずしもそれにこだわらず第1ラウンドで語り尽くせなかったことをお話し頂いても結構である。第3ラウンドは場内質問への回答としたい。

2. その他

前回の議事録について、特に修正意見はなかった。

以上